

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

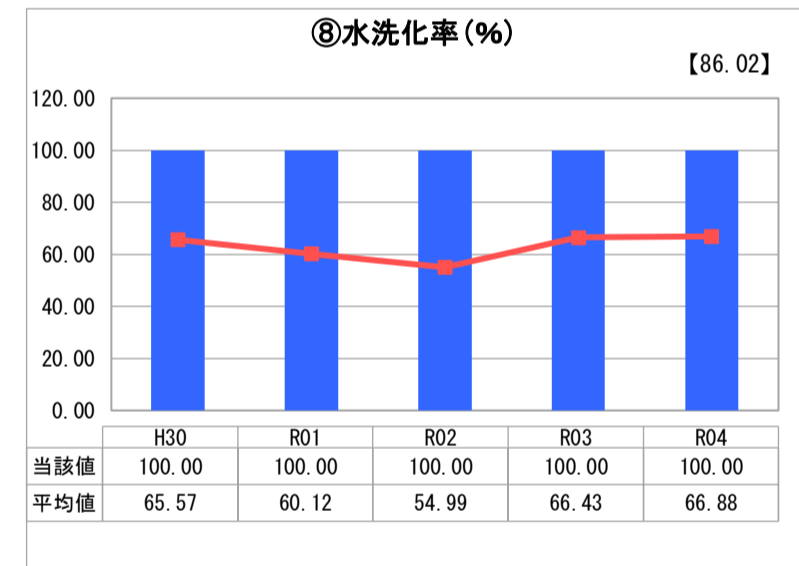
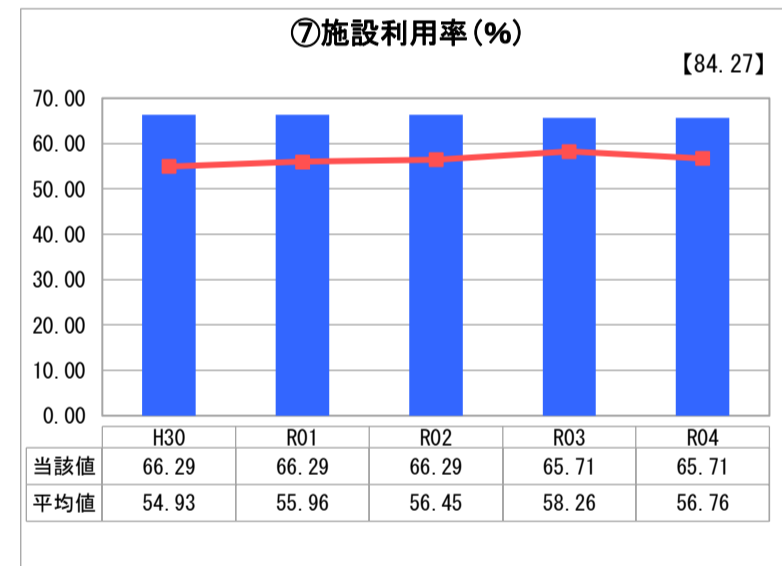
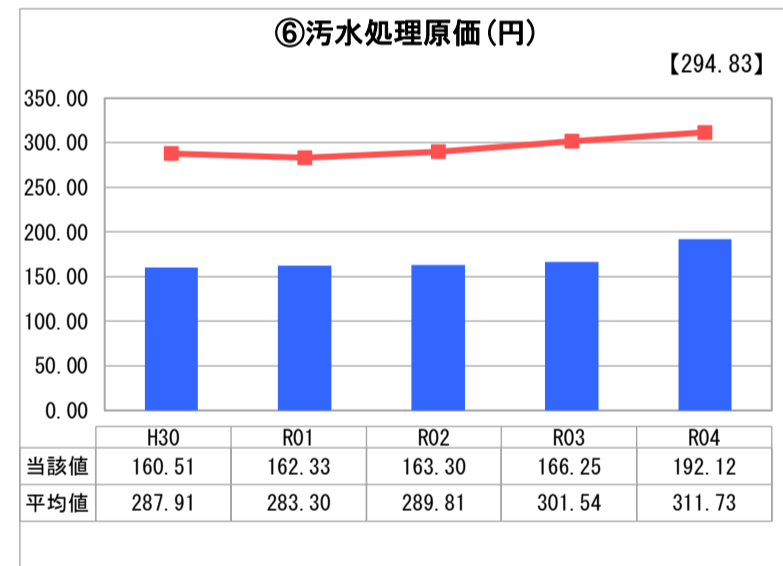
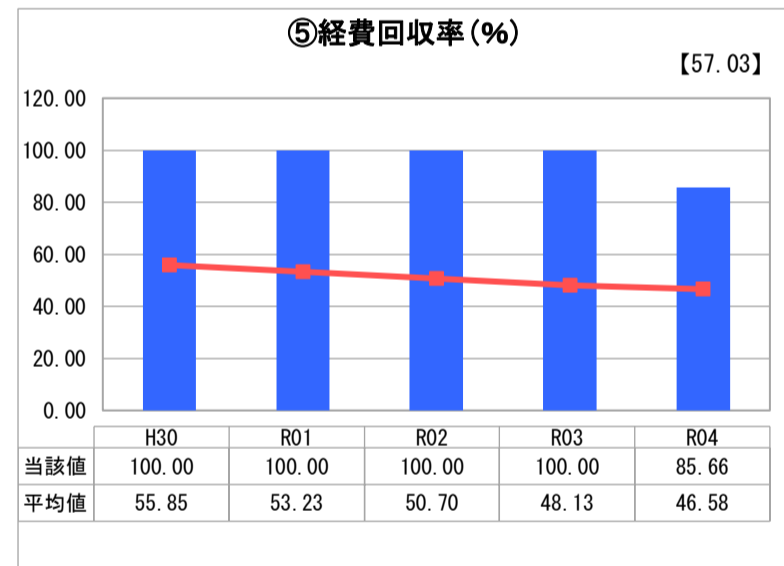
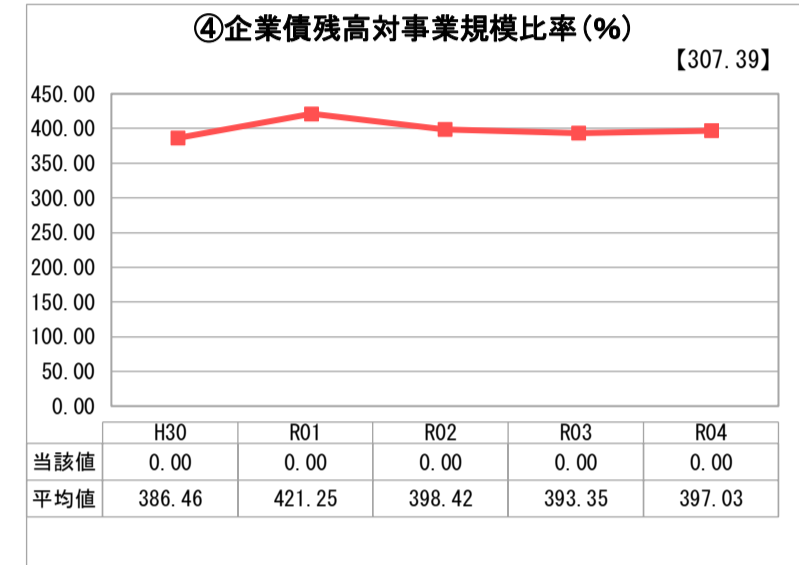
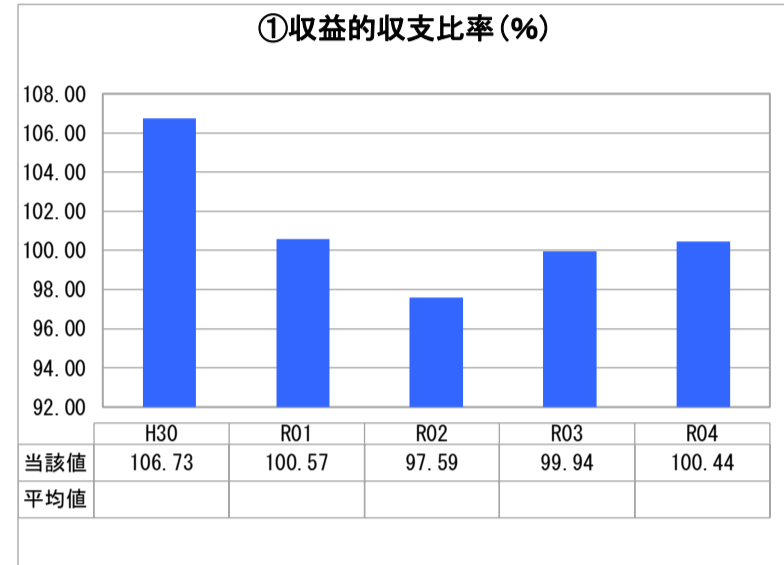
岩手県 盛岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.20	100.00	3,982

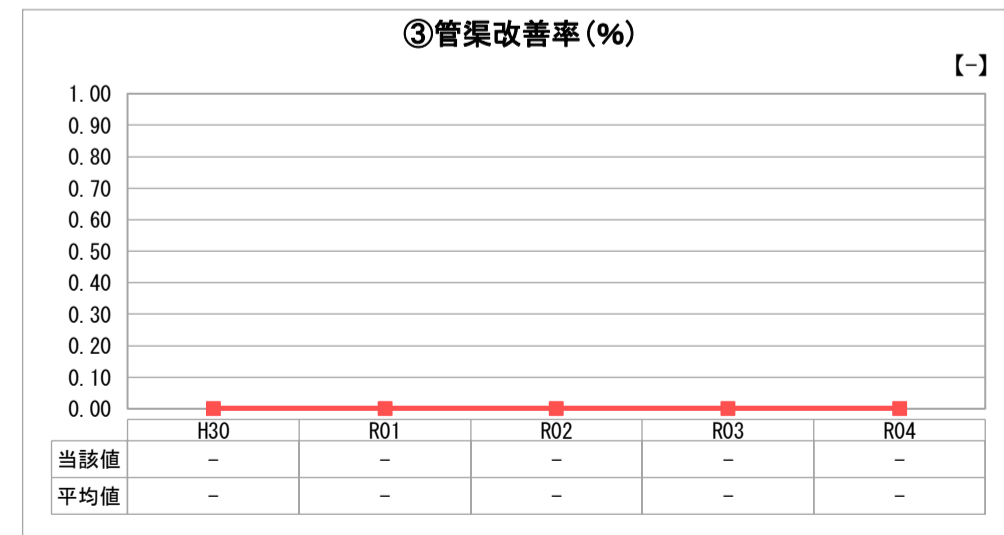
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
282,960	886.47	319.20
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
573	0.28	2,046.43

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

一般会計繰入金を含む収益的収支比率(①)は、令和2年度から3年度は100%を下回ったが、令和4年度は100%を上回り、黒字収支を確保している。

経費回収率(⑤)は、令和3年度までは100%を維持してきたものの、令和4年度は100%を下回り、今後の使用料水準の適正化が課題となっている。

今後も新規整備事業の見直し(廃止)や財源の制約などにより、収益の増加を望めない状況にあることから、施設の効率的な維持管理と経費の削減を進めるとともに、適正な受益者負担の観点から使用料の見直しを検討する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

平成20年4月から事業着手し、平成27年度をもって整備事業が完了していることから、今後は、将来の更新需要に備えて、維持管理事業に伴う費用の平準化とともにライフサイクルコストの最小化等の取組が必要である。

また、厳しい経営状況の下、将来の事業継続に向けて、受益者負担の適正化等の抜本的な対策が必要である。

## 全体総括

下水道事業(公設浄化槽事業)は、将来の普及人口の飛躍的な増加は期待できず、人口減少や節水機器の普及等の影響により、今後の使用料収入の大幅な増加は見込めない状況である。また、今後はこれまで投資してきた資産の更新需要が増加することから、より厳しいコスト意識が必要である。

このことから、より効果的で持続可能な汚水処理事業の全体構想等に基づき、将来にわたって市民が下水道事業のサービスを安定的に受けられるような事業経営に努める。また、使用料については、使用料体系も含めた適時適切な見直しを検討する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。